

## 出張報告書

先進理工学研究科 生命医科学専攻  
竹山研究室 助手・博士課程1年

丸山 徹

### 滞在研究機関名：

シンガポール国立大学 (NUS)、バイオポリス

### 出張期間：

2015/09/06 – 2015/09/10

### 交流概要：

(9月7日)

#### ■3D Lab Exchange Symposium

NUSにて Joint symposium に参加。午前中は早稲田・NUS 両校の学生によるショートトーク、午後は各機関の教員による発表が行われた。私も自らの研究紹介を行った。

#### ■共同研究に関するディスカッション

ドイツ・ボン大学の Prof. Irmgard Foerster と行っているマウス腸内フローラに関する共同研究のディスカッションを行った。

(9月8日 – 9月9日)

#### ■3D Lab Exchange Symposium

バイオポリスにて Joint symposium に参加。ラスカー賞受賞者である Prof. Michael Sheetz の発表を含め、異分野のハイレベルな研究の話聞く事が出来た。

### 交流総括：

異分野の最先端の話聞く事ができ、刺激的な3日間でした。

なかでも NUS の学生が行う研究のレベルの高さに驚きました。それぞれが最先端の技術を扱っており、私達に扱う事が出来ないような生命現象を追っているように感じました。また、彼らが行う研究の斬新さだけでなく、彼らのそれぞれから新しい価値を生み出そうとする意志を感じたことが印象的でした。

NUS・MBI (Mechanobiology institute) の中でもとりわけ優秀な学生が選ばれていたのかもしれませんが、それでも、自分と同世代である彼らが高レベルな発表をしている姿はとても刺激的でした。

研究発表後のディナーで何人かの NUS の学生と話をし、彼らも私のような日本

の PhD candidate と同じように、将来へ不安を感じていることがわかりました。バイオポリスに数百・千の企業が入っているように、シンガポールでは産学連携が進んでいる印象がありましたが、意外な事に、PhD の就職先が見つかりにくい現状があるようです。そんな中でも、彼らと自らの研究や将来のプランについて話し合う中で、彼らのような優秀な学生達が今後の競合相手になっていくのだと強く実感させられました。

これまでに私は、本プログラムの支援を受けてドイツ・サウジアラビアへの滞在を経験しています。その中で、普段とは全く異なる環境に曝されることが、凝り固まった物の見方を変え、研究活動へのモチベーションを高めるきっかけになると強く感じてきました。今回のシンガポール滞在においても、異分野の最先端の研究に関する発表を聞き、海外の学生と交流を持った事で、刺激を受ける事が出来たと思います。今回のシンポジウムに参加する機会を頂きましたことを深く感謝致します。